

令和3年度 学校評価 評価書

評定：3…よくできた・そう思う 2…できた・どちらかといえばそう思う 1…あまりできなかった・どちらかといえばそう思わない 0…まったくできなかった・そう思わない

	教職員自己評価		保護者アンケート		学校関係者評価		改善の方向性
	評価項目	評定	現況	評価項目	評定	ご意見	
主体的・対話的で深い学び	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	2	・コロナ感染症予防のため、グループ学習や対話があまりできなかった。 ・その時点で自分の理解や目標への達成度を確認させながら学習を進めた。	②お子さんは、授業が分かりやすいと言っている。	2	・タブレットを全児童に配布することで、さらにICTの活用が進むと思われる。	3
	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用含む）	2	・ICT機器を導入することで、授業の準備がしやすくなり、対話的な学習を進めたりすることができた。 ・主体的に対話的な学びをするために必要なことを理解する研修会や校内研究がなされていない。	⑤お子さんは、学級の一員として大切にされている。	3	・全国大会の発表時の子どもの意見発表を聞いていると、非常に深く考え、考察して発表していることを感じられた。個人差はあると思うが、学ぶ姿に感動をさせていただいた。	
	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会	2	・コロナ禍で対話が難しい中、何ができてどんな姿が見られたら主体的な学びととらえるのか。	⑧お子さんは、読書を楽しんでいる。	2		
道徳教育の充実	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	2	・実生活と結びつけながら道徳教育をした。 ・道徳参観はできなかったが、各学年の実態に応じた活動に取り組んでいた。	④お子さんは、優しさや思いやりの心を持って人に接している。	2	・ネット道徳をオンラインでより身近にできればよい。 ・道徳の授業を参観したい。	2
	道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	2	・授業や週間での取組だけでなく、日々の子どもの様子を注視し、その都度、適切なタイミングで道徳教育を継続していく必要がある。 ・道徳教育については、教員がどのような研修をしているか疑問である。	⑨お子さんは、あいさつができています。	2	・人の心の中はなかなか理解できないものの、子ども自身はいじめているつもりはなくても本人が嫌だと思っていると、悲しい、嫌だったという思いを持つことはあると思う。	
	保護者等への道徳科の授業公開	1	・毎回同じような内容(流れ)になってしまっている。もっと他の先生の授業も参観してバリエーションを増やしたい。	⑩お子さんは、集団生活のルールやマナーを身につけている。	2		
体力づくり	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	2	・学校閉鎖や休み時間の遊び、体育等の在り方から、子どもたちの体力の低下を感じる。 ・体の使いかたが不器用になり、「あまった・ぶつけた＝けが」の感覚の子どもがいる。			・コロナ禍でも運動会の開催を企画してもらいたい。 ・子どもたちが元気ですてきな笑顔です。	2
	体力づくりを推進する運動実践	2	・1000人規模の学校で、体を動かすことのできる場所がないことを残念に思う。 ・It's 笑 timeでは、学級で協力しながら1つのことを成し遂げる力がより高められた。	⑦お子さんは、すすんで体を動かす遊びや運動をしている。	2	・休み時間も走り回っている子どもの姿をよく見る。身体を使って遊ぶ姿がある。	
	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2	・いろいろな体育の補助道具をもっとそろえていくと、教師も指導がやりやすい。 ・体育の宿題				
指導改善(組織的・計画的)	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	2	・研究会や研修から新しい知見を得ることができても、まだまだ実践に移しきれていない。 ・授業を公開したり、授業実践を交流したりする機会がなかなかもてなかった。	①お子さんは、学校での学習を理解している。	2	・勉強ができないのではなく、人の話を聞いていないのだと思います。 ・学習の理解は学校の責任ではない。	3
	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	2	・瀬田北の学習規律を共通理解して指導に当たる。 ・急な会議や、共通理解する場のないまま進むことが働き方改革のプレーキになってしまっているのではないかと。 ・環境の改善や働き方に対する意識改善が進まなかった。	③お子さんは、家庭で学習する習慣が付いている。	2	・家によって差があるのではないかと。子どもが意欲をもって学校に行ける基盤がある子は学ぶ姿勢ができていると思う。	
	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2	・働き方の改善と教育活動の質の改善は同時進行できるのか。質を高める内容を精選する必要がある。				
家庭・地域との連携・協働	保護者の子育てに対する積極的な支援	2	・地域との連携は、担任との情報共有が不可欠。 ・地域ぐるみで子どもたちの安全を見守ることができている。	⑪学校は、学習(行事)参観や学校だより、学年通信、ホームページなどを通して、教育の目標や子どもの活動の様子が分かるように努力している。	2		3
	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2	・子どもの良さや頑張りも、家庭にフィードバックすることを大切にし、ともに子どもの育ちを支える関係を築いていきたい。 ・ホームページがみにくい。	⑫学校は、子どもや保護者の相談に適切に応じている。	2	・取組を感じられる。 ・忙しい中、先生方が家庭訪問をされている姿もよく見る。	
	防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり	2	・可能であれば、ミシン、そろばん、昔遊び、かけざんなどの地域の方の協力が少しずつできるとよい。 ・学校の考えをもっと発信するべき。	⑭学校は、子どもの安全のためにPTAや地域団体と協力して適切な取り組みをしている。	2		

	教職員自己評価			保護者アンケート		学校関係者評価		改善の方向性
	評価項目	評定	現況	評価項目	評定	ご意見	評定	
保幼小中の連携	子どもの校種間交流や教員の出前授業	2	・コロナ禍で校種間の交流が難しくなっている。 ・幼小連携で幼稚園の取組や思い等を知ることができたと同時に、子どもたちがよりよく学校生活を送るために今後も継続して学校全体での取組むが望まれる。 ・各校園間で、情報交換を行う機会がなかなか持てない。			・自己評価の通り、これから発展の余地がありそう。 ・今日の発表の中でも成果を感じる。	3	・スタートアップカリキュラムの実行→評価→改善→計画。 ・絆プロジェクトの役割の明確化。 ・ねらいをもった幼小連携。(5・5交流の前に担任同士の顔合わせをする)
	校種間の授業公開や合同研修会	2	・絆プロジェクト ・1年と幼稚園の交流と、5・5交流のねらいを共有するべき。					
	保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	2	・スタートカリキュラムを学校として置くことで、毎年プレずに指導ができるのではないか。					
生徒指導体制の充実	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導	2	・生徒指導、いじめ担当の先生方の存在はとても心強い。 ・生徒指導が後手に回らない方法を共通理解する。同時に指導案件が起こった時の組織作りが大切。			・指導はあると思うので、それ以降は家庭の問題。 ・何か子どもの様子に変化がある場合等、民生委員の方にもすぐ連絡がいただける。	3	登校指導について…登校の責任については、分団での登校としているかぎり、学校半分保護者半分であると考えられる。そのため、保護者、特に地域に任せきりではなく、学校も登校指導を行うべきである。管理職と相談をして、可能であれば、登校指導該当学年の勤務時間を早める。また、月曜日だと忘れがちなので、毎週水曜日を登校指導の日とする。
	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進	2	・生徒指導が充実しているのは確かだが、生徒指導に頼り切っている場合もある。 ・気になるシートにあがる事例が多すぎる。(情報量が多い)	③学校は、子どもに何か問題が起きたときの指導をきちんと行っている。	2			
	家庭・地域・関係機関との連携による指導	2	・定期的な情報交換ができていて安心。 ・担任が一人で抱え込まず誰かに気軽に話せる環境づくりを。					
特別支援教育の充実	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2	・すぐに相談できる体制が整っている。 ・学級の子どものことで、校内での確かなアドバイスをいただけるのは心強い。			・自己評価の通り。 ・気になる子どもさんの聞き取りが小学校にありますが、中学校の聞き取りがなく、その後のことがわからないままになっている。	2	*色んな視点から見られるように、支援級の授業を見られるといい。→交流学級担任と支援学級担任が互いに連携を取り授業交流をするとうい。 *支援計画開示の期間を明確に設ける。その時期は、会議を減らす。→10～11月の2週程度、2～3月の2週程度を目安の期間として設定してもよい。 *教師の意識低下を感じるので、研修をする。→夏の研修は続けていく。その他、学年で出た疑問(保護者対応、発達障害のある児童への対応など)など、特別支援部会で話し合い、学校全体に広げていく。 *相談室を休憩として使用するのはいいと思うが、一日中使用するのはおかしい。→相談室を利用している子どもについて「子どもを語る会」で知らせたり、相談室の利用の仕方について特別支援部会で話し合ったりするなど、教職員の共通理解をはかっていく。
	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	2	・いろいろな視点から見られるように、支援級の授業を見られるといい。 ・教師の意識が低下していると感じる場面が多かった。 ・相談室を使う児童の使い方がとても気になる。					
	関係機関と連携した相談体制の充実	2	・静かに困っている子は見過ごされがちで今後の課題。					
3つの約束	心を込めたあいさつ	2	・話を聞くことに関して、児童の意識の低さを感じる。 ・職員同士の認識の違いがあるため、指導にばらつきが出る。			3つの約束について…来年度も継続して学校の約束事としていく。特に「掃除」については、高学年が手本、その手本が教師となっていくことができるように、教師がすすんで掃除をしていく。何もしていない教師が指導するよりも手本を見せることの方が説得力があると思います(たまに見回りも必要ですが…)。今年度出来なかった高学年のビデオ撮りをして、それを北小掃除のスタンダードとしていく。 ※何事も教員全員が同じ方向を向くことが大切です!!		
	額に汗するそうじ	2	・3つの約束に廊下歩行も入れたい気持ちがある。 ・教員が同じ方向性でやっていく必要がある。					
	人の話をしっかり聴く	2	・あいさつを教員も子どもも徹底したい。					
瀬田北の取組	校内研究テーマを意識した授業づくり	2	・校内研究が「伝え合う・聴き合う」なので意識している。なかなか浸透せず困ることもあるが、少しずつ積みあがってきていることを実感する。 ・学校として統一されていることが少ない。 ・家庭学習について、自主的に取り組んでいる児童がごく一部のみ。指定されないと、どのように取組んだらいいのかわからない児童が多い。 ・職員数が多く、共有が難しいように思った。					・瀬田北の子どもの実態を全職員で共通理解し、その力をつけていけるよう手立てを考え、実践(指導)していく。そのために、子どもについて個々に、学年で、学校で話ができるように同僚性を高めたり、環境を整えたりする必要がある。
	家庭学習習慣の確立	2						
	進路指導・キャリア教育の推進	2						
	読書活動の推進	2						
	国際理解教育の理解と実践	2						
	集団生活におけるルールやマナーの定着	2						

学校満足度(児童アンケート)	3		⑥お子さんは、楽しく学校へ通っている。	3	・楽しそうに登校・下校する子ども達の姿に安心している。	3	
----------------	---	--	---------------------	---	-----------------------------	---	--